

●漁況情報

- 6月上旬、長井町漁協の大型定置網に2kg物のサワラが入網しました。2日は4t、7、9日3tで、昨年同期と比べて少な目でしたが、コロナ下でも比較的良い値が付いたそうです。
- 6月下旬以降、腰越から東地区でもしらすが獲れ始め、7月上旬には夏しらすの漁がまとまり、多い日には100kg以上/日の漁があるそうです。

●浜の話題

- 6月1日、長井町漁協と横須賀市大楠漁協は、(一財)横須賀市西部水産振興事業団の支援を受けて、トラフグ種苗(平均83mm)を各5,000尾ずつ地先の適地に放流しました。また、29日にはヒラメ種苗(平均62mm)を長井17,500尾(公財)栽培漁業協会1万、(一財)西部水産振興事業団4,500、漁協3千)、大楠11,200尾(公財)栽培漁業協会5千、(一財)西部水産振興事業団4千、漁協2,200)、地先の適地に放流しました。長井の種苗放流の様子は、同漁協YouTubeチャンネル「おっぺせ!ナガイ ch 神奈川県の漁協」で紹介されているのでぜひご覧ください。

YouTubeチャンネル「おっぺせ!ナガイ ch | 神奈川県の漁協」

https://www.youtube.com/channel/UCttsbtfXI-vFc_jlzOuzCiQ



トラフグ種苗



長井のヒラメ種苗放流



大楠のヒラメ種苗放流

- 6月の大潮干潮時、鎌倉ハマグリ部会所属漁業者は、鋤簾によるチョウセンハマグリ(ハマグリ)の特別採捕許可調査を実施しました。干潮を挟んだ2時間で3~5kg/人、大きさは55-100mm(平均85mm)、3~5歳に該当する様々な大きさのハマグリが確認され、地先にハマグリが根付いている様子が確認できました。



鋤簾によるハマグリ特別採捕許可調査の様子と調査で採取されたハマグリ

- 三和漁協城ヶ島支所では6月8日から例年実施している刺網によるアイゴ駆除を始めました。昼過ぎに出港し、アワビ、サザエの漁場となっているカジメ、アラメ場に刺網をかけて翌朝に網を引き揚げてアイゴを駆除しています。アイゴは6月になり水温が上がってくると産卵にそなえて藻場の海藻を活発に食べるようになります。捕獲した魚の胃の中を見てみるとアラメ、カジメ、アカモクなどの破片が目一杯つまっています。逆に産卵期の7～8月になるとどんどん精巣や卵巣が大きくなり、消化管が圧迫されて海藻を食べる量が少なくなると言われています。アイゴを減らすためには産卵前の海藻を活発に食べるこの時期にできるだけ効率よくアイゴを駆除したいものです。



藻場に刺網を掛けている所 海藻で膨れた消化管と大きくなってきた卵巣 胃の中から出てきた海藻の破片

- 6月9日、葉山町漁協は、同漁協潜水部会所属漁業者が、独自にキャベツを餌として蓄養した「キャベツサザエ」の試食会を開催しました。当日は、角田組合長、葉山町漁協潜水部会員と、葉山町職員の立会いの下試食し「磯臭さが少なく柔らかくておいしい!」という感想がありました。「キャベツサザエ」は同漁協直売所で桜花丸さんが試験販売しており、消費者にも好評だそうです。

葉山漁協海産物直売所 <https://sea.ap.teacup.com/jf-hayama/81.html>

- 6月10日、水産技術センター栽培推進部は、東京湾産トリガイの養殖試験を横須賀市東部漁協のご協力をいただき開始しました。当日は青年漁業士の譲原亮さんの武丸に研究員が同乗させていただき、新安浦港内の貝類養殖の筏からトリガイの入った養殖カゴを垂下しました。夏場、天然のトリガイは貧酸素水の影響より、ほとんどの稚貝が死んでしまいます。このため、養殖方法を開発し、漁業者の所得向上を目指します。



トリガイ養殖の様子

- 6月10日、藤沢市漁協と江の島片瀬漁協は、県水産課、藤沢市農業水産課、湘南海上保安署、藤沢警察署など総勢約30人体制で密漁防止合同パトロールを実施しました。藤沢市の片瀬海岸西浜から鵜沼にかけて初めて行われたパトロールでは、ハマグリ採取が密漁になることや、漁業権の侵害として100万円以下の罰金になることを記載した啓発用のチラシを、海岸を訪れたサーファーらに配布し、海のルールを守るよう呼び掛けました。

- 6月11日、藤沢市役所の補助を受けた藤沢市漁協がチョウセンハマグリ種苗放流を実施しました。放流種苗の大きさは、すぐに産卵するサイズの大型4年物と、個数を稼げる小型2年物で、漁業者は湘南ブランドの「湘南はまぐり」の漁業資源を維持するため、期待を込めて放流しました。



放流する小型2年物種苗と大型4年物種苗



チョウセンハマグリ種苗の放流

- 6月17日、小田原市漁協遊漁船部会が、小田原沖の3地点に簡易浮魚礁を設置しました。この魚礁設置事業は毎年行われており、回遊性魚類の集群を促すことで、新しい釣り漁場の造成を行うことを目的としています。カツオやキハダが蟄集し、好漁場が形成されることを期待します。



簡易浮魚礁の設置作業



- 6月22日、腰越漁協及び鎌倉漁協所属漁業者は、(公財)相模湾水産振興事業団の支援を受けて、ヒラメ種苗を放流しました。当日は(公財)栽培漁業協会より購入したヒラメ種苗(平均64.7mm)1万尾(腰越)、5千尾(鎌倉)を、腰越では漁船で地先の5m以浅、鎌倉では1m以深の砂地の適地に放流しました。放流したヒラメは、海底に向かって元気よく泳いでいく様子も確認できました。



腰越地区のヒラメ種苗放流の様子

- 6月22日、平塚市漁協職員やひらつかタマ三郎が出演していた、湘南ケーブルネットワークの「平塚食べCIAO」第4回が、平塚市公式チャンネルのYouTubeで公開されることになりました。「今回は水産編!平塚のサバをサバいちゃお」とした題名で、定置網の構造や漁模様、直売会、サバの三枚おろしなどが放送されていますので、興味のある方は是非ご覧ください。

- 6月24日、横浜市漁協金沢支所は八景島の地先にヒラメ(5千尾 平均全長63mm)とメバル(3千尾 平均全長60mm)が放流されました。放流には、地元の金沢小学校の5年生 68名も参加し、児童たちにとって貴重な体験となりました。



金沢小学校の児童による放流の様子

- 6月28、29日、7月5日、小坪漁協所属漁業者や地元加工業者、料理店等で構成される合同会社「こつぽ」は、4月中旬から当センター利用加工部指導の下育成したキャベツウニの販売会を開催しました。当日は、地元商工会に加入している量販店「スズキヤ」に合計430個、飲食店に合計400個のキャベツウニを出荷しました。29日は、逗子市観光大使に選任されている石原良純氏や、観光協会、逗子市長も駆け付け、大いに盛り上がったそうです。



キャベツウニ育成の様子 左上 出荷用に身を摘出している所 右下 箱詰めされたキャベツウニ

- みうら漁協の鈴木清組合長が漁業経営の安定に尽力したとして、6月30日に県民功労者表彰を受賞されました。これまで鈴木組合長には全国合同漁業共済組合、全国漁業信用基金協会など数多くの水産関係団体の役員を務められ、組織の充実強化と漁業経営の安定化に大きく貢献していただいております。本県水産業に対する長年にわたる御尽力に対し深く感謝いたします。